

教育会館だより



No. 77

発行日
2026年4月1日
発行人
増田 貴範

【題字】
館盛 静光
(元相模原市長)

目次

- 1 ページ
理事長のあいさつ
- 2・3 ページ
2025年度事業報告
- 4 ページ
2026年度事業計画

発行 一般財団法人相模原教育会館 〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-13 ☎042(758)2190
<http://www.sagamiharakyouikukaikan.or.jp/>



理事長 増田 貴範

子どもにとって大切な環境とは ―子育て支援に「子どもの視点」を―

皆様には日頃より相模原教育会館の活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。子育てや教育に携わる皆様におかれましては、日々の生活の中で子どもたちから多くの喜びや気づきを得る一方で、子育てと仕事の両立、子どもの発達や学校生活への心配など、さまざまな思いを抱えながら子どもたちと向き合っておられることと思います。保護者の皆様、そして地域や学校、保育・幼児教育の現場などで日々子どもたちに関わっておられる皆様が、それぞれの立場から子どもたちの

育ちを支えてくださっていることに、心から敬意を表します。

近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。共働き家庭やひとり親家庭の増加などに伴い、子どもたちが安心して過ごせる放課後や朝の居場所、保護者にとって大きな関心事となっています。相模原市においても、児童クラブの拡充や朝の預かりなど、保護者が安心して働きながら子育てできる環境づくりに向けた取り組みが進められています。こうした支援は、子育て世代にとって大きな支えとなるものです。

その一方で、子どもたちにとって本当に大切な環境とは何かという視点も忘れてはならないのではないのでしょうか。学校や児童クラブ等で過ごす時間が長くなる中で、保護者や地域の大人との「ふれあい」が希薄になってはいないでしょうか。子どもたちが大人たちに見守られながら友だちと遊び、地域の中でさまざまな体験を重ねていくことは、子どもの成長

にとってかけがえのないものです。

スマートフォンやAIなどの急速な普及により、私たちの生活は大きく変化しました。しかし、子どもたちにとって実体験から得られる学びや感動は、健やかな成長のために欠かすことのできないものです。だからこそ、人と人との顔を合わせ、言葉を交わし、互いに見守り合う関係を地域の中で育んでいくことが、これまで以上に大切になっていくのではないのでしょうか。

相模原教育会館は、「ふれあい」を大切な理念として、県央・県北地域の教育・文化の振興と教職員 の教養の向上をめざし、これまで様々な事業に取り組んでまいりました。これからも教育や子育てに関わる多くの方々が集い、学び合い、つながる場として、その役割を果たしていきたいと考えております。

今後とも、相模原教育会館の活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般財団法人相模原教育会館

理事長 増田 貴範

●2025年度事業報告

●人権・解放教育研修会 人権を守り、

共に生きるために

2025年6月13日、「人権・解放教育研修会」を会場とオンラインのハイブリッド形式で開催いたしました。講師には、人権教育推進協議会の井上恭宏さんを迎え、「今だから考える『同和教育』入門編」というテーマで、同和教育の歴史や現代の課題、人権問題の本質についてお話しいただきました。

井上さんは、同和教育において「子どもたちを取り巻く社会との



井上恭宏さん（人権教育推進協議会）

関係」を理解することの重要性を強調されました。私たちの気づかないところで、今なお被差別部落にルーツを持つことで不利益を被っている子どもたちがいる現実を、まずは正しく知らなければなりません。また、部落差別を考える際、「差別をする・しない」という個人の単純な分け方ではなく、社会の仕組みや人間関係の中でのように差別が生まれてしまっているのか、その構造を捉え直すことが大切であると説かれました。

さらに、「教えなければ自然に差別はなくなる（寝た子を起こすな論）」という考え方についても言及されました。こうした姿勢は、かえって「差別がある」と言い出せない、相談できない社会を作ることにつながってしまいません。誰もが声を上げ、相談できる温かい社会を築き、一人ひとりが「代わりのきかない一人の人間」として尊重されて生きることの重要性が語られました。

参加者からは、「歴史的背景や差別の実態を詳しく知らなかったので、非常に勉強になった」「人権問題は常に意識し続けることが

大切だと感じた」といった前向きな声が届いています。また、「自分が育った地域では当たり前になんて学んでいない現状に驚いた」「日常の何気ない言動の中にも差別が潜んでいることに気づき、普段からの意識が必要だと痛感した」など、自身の環境や言動を深く見つめ直す機会となったようです。

今回の研修を通じて、差別は決して他人事ではなく、私たちの身近に存在する課題であることを改めて認識しました。誰もが自分らしく生きられる地域づくりに向け、これからも共に学び、歩んでまいりましょう。

●親と子のふれあい映画会 「ぞう列車がやってきた」 を4会場で上映

子どもたちの夏休み期間に合わせて、4つの会場（7月22日 相模原教育会館・25日 愛川町文化会館ホール・29日 津久井中央公民館・31日 海老名文化会館）で「親と子のふれあい映画会」を開催しました。

上映した「ぞう列車がやってきた」は、戦争の中で象を守ろうとした人々の優しさや勇気、そして



7月22日、相模原教育会館でのようす

戦後、「象を見たい」という子どもたちの願いをかなえるために、名古屋から東京まで「平和の象徴」として「ぞう列車」を走らせた実話をもとにした作品です。

4会場合わせて269人の参加がありました。参加者からは「普通の生活ができるのは当たり前だと思っていたけれど、ありがたんだな」と思った。「戦争の映画は見せようか悩んだけど、目を背けずに見たり、知ったりしないといけない内容で子どもと一緒に見られてよかった」といった声が寄せられました。

戦後80年の節目の年に、映画を通して、平和の大切さをそっと心に刻む時間となりました。

●親と子のふれあいカルチャー教室
絵本とふれあう

「夏のおはなし会」

7月28日、相模原教育会館で「親と子のふれあいカルチャー教室」を開催し、7人の参加がありました。こどもブックベースの鈴木まさ代さんを講師にお迎えし、絵本の読み聞かせ会を行いました。

子どもむけの絵本だけでなく、大人も楽しめる絵本など、さまざまな作品を紹介していただき、参加者はゆったりと絵本の世界に浸る時間となりました。

参加者からは「いろいろな絵本を読むことができたし、読み聞かせのコツを教えてもらえてよかったです。」



絵本とふれあう子どもたちのようす

た。家でも挑戦したい」といった声が寄せられ、有意義な時間となりました。

絵本の世界に浸る時間は、心をほぐしてくれる大切なひとときだと感じられる会となりました。

●教育文化講演会

子どもと大人が「ともに創る」未来
―権利条約の基礎から、

学校・家庭での実践まで―

2月17日、(一財)相模原教育会館事業「教育文化講演会」がハイブリッド開催され、45人の参加がありました。中島早苗さん(認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表理事)を講師に招き、子どもの権利条約の背景や特徴、そして権利が生かされた実践についてお話しいただきました。

中島さんは、条約の原文では「意見 (opinion)」ではなく「views」という言葉が使われていることに触れ、表情やしぐさといった非言語的な表現も、子どもにとって大切な「意見」として受け止める必要があると語られました。また、子どもの権利は生まれたときから持っている、子どもである限り何度でも使える「チケット」のようなものであることなど、人権の歴史

をふまえた理解の大切さを伝えてくださいました。

さらに、「子どもに権利を教える」とわがままになるのでは」という疑問については、実際に子どもたちから聞いた声を紹介しながら、権利を知ることによって視野が広がり、自分を大切にできる力が育つことを丁寧の説明されました。

そして中島さんは、子どもの声にただ従うのではなく、一人の人間として尊重し、その思いを引き出しながら寄り添う姿勢が大切だと話されました。

子どもと大人がともに歩むことで、より安心して過ごせる未来につながることをあらためて感じる時間となりました。



中島早苗さん
(認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表理事)

相模原教育会館の会議室を
利用してみませんか？

(一財)相模原教育会館は、200人以上が入れる大会議室等、各種様々な部屋を貸し出しています。ぜひ、ご利用ください。

室名	定員	料金
小会議室 (1)	30名	1時間 900円
小会議室 (2)	30名	1時間 900円
小会議室 (3)	30名	1時間 900円
小会議室 (1)(2)は合わせて1室(60名)として利用できます。		
大会議室 (1)	120名	1時間 2,700円
大会議室 (2)	120名	1時間 2,700円
大会議室 (1)(2)	240名	1時間 5,000円
控室	10名	1時間 500円

●地域に根ざす教育・文化の振興に寄与するために

2026年度一般財団法人・相模原教育会館事業計画

1. 教育文化振興事業

- ・(1) 親と子のふれあい映画会
- ・時期 および場所

7月下旬～8月中旬
津久井中央公民館
愛川町文化会館
大和・座間会場
相模原教育会館

- ・内容

（自然や動物と人とのふれあいをテーマにした作品）

- ・対象 一般

(2) 教育文化講演会

- ・時期 2月 予定
- ・場所 相模原教育会館
- ・内容 文化・教養の向上に資するもの

- ・対象 一般

(3) 「教育会館だより」の発行

- ・時期 年1回
- ・内容 実施事業の報告およびPR

- ・対象 一般

2. 教職員福利厚生事業

- ・(1) スポーツ観戦チケット幹旋
- ・時期 4月

(2026年度後期日程分)

2月

- ・内容 横浜スタジアム（プロ野球ベ이스ターズ戦）
ペアチケット幹旋

- ・対象 教職員

(2) 歴史・文化散歩

- ・時期 9月中旬
- ・場所 未定
- ・内容 歴史や文化、由緒ある場所などの見学

- ・対象 退職教職員

(3) 湘北教職員体育大会

- ・(注) ツットサル大会・モルック大会
- ・時期 10月上旬～中旬 予定
- ・場所 湘北地区内会場
- ・対象 教職員とその家族

(4) 人権・解放教育研修会

- ・時期 6月中旬 予定
- ・場所 相模原教育会館
- ・内容 人権課題または自立と共生に対する意識理解を深めるための研修会

- ・対象 教職員

(5) 学習交流会

- ・時期 10月下旬 予定

- ・場所 相模原教育会館
- ・内容 学校現場の教育課題についての話し合い

- ・対象 教職員、退職教職員

(6) 教育・教養研修会

- ・時期 12月 予定
- ・場所 相模原教育会館
- ・内容 教育課題に関する研修会
- ・対象 教職員、養護教職員

(7) 物資幹旋

- ・時期 随時
- ・場所 各学校・各教職員より申し込み
- ・内容 物資販売の幹旋案内
- ・対象 教職員

3. 教育会館運営及び生命共済事業等

(1) 会議室の貸室

- ・時期 通年
- ・内容 教育会館内会議室の貸出案内・調整、施設・備品整備等

(2) 湘北教職員生命共済

- ・対象 各構成団体、一般
- ・時期 4月 中途PR
- ・内容 (新規採用者むけ幹旋)
7月下旬～9月中旬
(説明会・加入手続き)
2月

- ・内容 2026年度(第41期)
(保障制度開始)

更新推進事業、新規・継続加入説明・通知

- ・対象 教職員

4. その他

(1) 「教育会館ホームページ」

- ・時期 通年
- ・内容 教育会館の紹介
(設立趣旨、会議室貸出案内等)

